



謹賀新年

「瓢箪山商店街の不思議と地域医療」

院長 山中 英治

昨今の地方都市の駅前商店街は、たいてい寂れています。ところが、瓢箪山の商店街は賑やかです。黒門市場の様なインバウンド効果ではありません。お客さんは地元住民です。よそから見れば不思議なようです。

瓢箪山は交通の便は良く、大阪市内へ買い物に行こうと思えばいつでも行けます。瓢箪山商店街にはイオンモールもありません。〇〇の街といった専門店街でもありません。しかし日常生活に必要な買い物は、たいがい間に合います。

確かに地元で何でも揃うなら、わざわざ人混みの中に電車に乗って行く必要はありません。同じような物を買うのに疲れに行くようなものです。飲食店も各種揃っていて梅田や難波の店より安いし、近所なら飲んで帰るのも安心です。賑わっているのは不思議ではなく、地元の方が良いからですね。

診療所につきましても、例えば枚岡地区だけ見ても商店街を貫く旧外環を挟むように東西に、北は日下から南は横小路まで、診療科も揃っていて近くの診療所にかかりつけ医になってもらえます。往診や訪問診療もされています。

昨年、枚岡地区で医師会の先生方が中心となって、在宅医療の市民公開セミナーが開催されました。住民の皆様の関心も高く、多くの方々に参加頂きました。「少子高齢化社会」「地域包括ケア」「在宅医療」は昨今のキーワードであります。

「国は医療費削減で病床を減らして在宅医療を推進って言うけど、老人だけの世帯で誰が見るねん？」というのが現場の声でしょう。えらい人の講演を拝聴しますと「地域で見る」と仰います。しかし、具体的にどうすれば良いのかが示されません。

かたや医療の進歩で、一人の治療に数千万円の高価な抗癌剤が保険適用です。数億円のリボット手術器械、使い捨ての数万円の手術器具、日本の医療は薬と器械は贅沢ですが、国民皆保険制度のおかげで自己負担は少なく良い医療が受けられます。この制度を守るためにも医療は費用対効果を考える時期に来ています。

日本でも「死ぬまで元気」で、老衰で亡くなる人が多い地域は、当然ですが医療費が少ないというデータがあります。生活習慣病は高齢になってから脳卒中や心臓病のリスクが高くなりますので、日ごろの健康管理が大切です。癌は早期発見なら治ります。つまり近所にかかりつけ医があることが、死ぬまで元気につながります。

重症になって、あるいは進行して、慌てて大阪市内の大きな病院に行っても、治らない病気は結局治りません。医療費も高くなります。医療も瓢箪山商店街の様に「地元で顔見知りの長い付き合い」が安心ですので、商店街を見習って地域に貢献できる真の「地域包括ケア」のお役にたてるよう本年も努力いたします。

地域連携課より お知らせとごあいさつ



健康情報部 地域連携課 高坂智子

去年はたくさんのご紹介を賜りありがとうございました。お陰さまでご紹介の件数は増え続けております。ひとえに地域の開業医の先生方のご尽力によって得られた結果であり、感謝いたしております。今後も地域に貢献できるよう努力してまいりますのでご紹介のほどよろしく願い申し上げます。

また、平成30年1月より新たに胃がん検診(胃内視鏡検査)が始まりました。当院も実施機関となっております。予約を随時承っておりますのでどうぞ地域連携課へお問い合わせください。

地域の病院で早期発見、治療ができ、治って地域のかかりつけ医の先生に日頃の健康管理をお願いすることができるように、啓発活動、研修会の企画実施にも努めてまいります。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます

